＜今日の聖書から＞

【ぶどう畑】イザヤ書５：７に“万軍の主のぶどう畑はイスラエルの家であり、主が喜んでそこに植えられた物は、ユダの人々である。主はこれに公平を望まれたのに、見よ、流血、自分ひとり、国のうちに住まおうとする”とあります。今朝の聖書箇所の前半に記されているぶどう畑の喩はイザヤ書のものです。

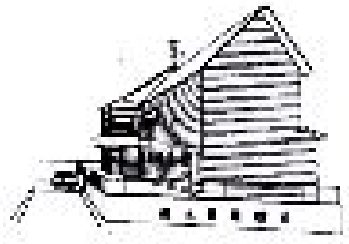
【隅のかしら石】もう一つ旧約聖書の箇所が出てきます。詩編１１８：２２～２３に“家造りらの捨てた石は隅のかしら石となった。これは主のなされた事でわれらの目には驚くべき事である”というところです（マルコ１２：１０）。英語ではただ chief cornerstone とか head of the corner 等と訳されています。なにか訳しにくそうな感じを受けます。κεφαλὴν γωνίας が“かどの頭”と直訳できる言葉が元々の聖書に使われています。 殺されたものが再建（成就）の要石に当たるでしょう。

【皆の神観】１２：１２に“彼らは自分たちに語られた”ことが分かった、と有る通り、おそらく私たちよりもずっと良く（細かく）旧約聖書に長けていました。特に律法学者などといわれている人々にとっては収入の基盤でもありました。今私たちが主イエスの再び来たりたもうことを、教会にあって日毎の基盤にして、待ち続けるのとは反対になります。主なる、栄光と裁きの審判者なる神は確かにおいでになり、正しい者と主に犠牲をささげる者と共に働いておられる、と教えたでしょう。しかし実際に、主の到来は好みませんでした。世の中の不安定要素になりかねないからです。主はこのような世界に来られました。マタイの初めに“ヘロデ王はこのことを聞いて不安を感じた。エルサレムの人々もみな、同様であった（マタイ２：３）”とあります。現代的な言葉を使えばファシズムの世界だったようです。救いという変化をも嫌ったようです。

【教会の思い】教会は何を大切にしているでしょうか。神より頂いた救いの中で、ひたすら聖餐と御言葉により“主を待ち続ける希望の内に生きる’ことを目指しているはずです。大事なものを間違えて捨ててしまっていないでしょうか。邪魔っけな十字架を捨ててしまったり、反対に“豪華な十字架でしょう”と言いかねない時が、私たちにもあります。立派で大きなぶどう畑のような教会でしょうとか、私たちはその中心にいると思ったり、まだ小さいから、もっと大きなぶどう園にしなくては、そのためには“主イエスの救いとよみがえりの命”等と語ってはいけない、とも思ったりします。悪魔はそう囁くのです。“教会の教勢”なるものが問題だと。また“貧しさに耐えるのが教職の姿”とも、別の時には囁くのです。

週　報

２０１０年　８月　２２日



伝えよう　救い主を
迎えよう　主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師　　村上　定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前　9：00
礼拝式	毎日曜日	午前 10：30
	（聖餐式　第一日曜日）	
夕礼拝式	毎日曜日	午後　7：00
エステルの会	毎水曜日	午前 10：30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後　7：00

ホームページ　http://kusanagi.church.jp/

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道３丁目２－２６
☎054-345-4070　　E-Mail grace@big.jp
振替口座　00890-6-214042